

市民懇談会 実施概要報告

1. 目的

総合計画の役割や見直しの状況について情報を共有するとともに、野洲市や各学区の魅力について共有し、それらを守り育てていくために必要な取り組みについて意見交換を行い、可能なものは総合計画に反映する。

2. 形態

車座形式（全員が車座に着座して、テーマに沿って自由に意見交換する）

3. 開催概要

学区	日時	会場	参加者数
野洲	平成 23 年6月 26 日(日) 午後(14:00～16:00)	野洲文化ホール 小ホール	7名
北野	平成 23 年6月 18 日(土) 午前(9:30～11:30)	コミュニティセンターきたの	13 名
三上	平成 23 年6月 25 日(土) 午前(9:30～11:30)	コミュニティセンターみかみ	9名
祇王	平成 23 年6月 25 日(土) 午後(14:00～16:00)	コミュニティセンターぎおう	25 名
篠原	平成 23 年6月 19 日(日) 午後(14:00～16:00)	コミュニティセンターしのはら	15 名
中里	平成 23 年6月 18 日(土) 午後(14:00～16:00)	コミュニティセンターなかさと	9名
兵主	平成 23 年6月 19 日(日) 午前(9:30～11:30)	コミュニティセンターひょうず	7名

4. 市全体に対する主な意見

(1) 野洲市（全体）

（各学区の懇談会において出された、全市に関する主な意見について整理した）

① 野洲市の魅力

- ・ 三上山、野洲川、琵琶湖といった連なる自然
- ・ 蛍を見ることができる中ノ池川や家棟川
- ・ 市民活動が盛んに行われている。
- ・ 特別支援教育などに熱心であり、障がいのある子どもを安心して育てることができる。

② 魅力を守り育てるために必要なこと・方策

- ・ 三上山の登山道を整備し、多くのひとがハイキングなどを楽しむことができるようにする。
- ・ 景観が悪化しないよう、建築物の建設等に配慮する。
- ・ 子どもの安全確保、火事や災害への対応を考え、道路の整備を進める。
- ・ 市民団体やサークルに関連する情報を整理し、市民が活動に参加しやすく、団体が活動しやすい環境を整える。
- ・ 野洲市や滋賀県、日本を担う人材の育成に力を入れて取り組む。

市民懇談会の主な意見

【野洲学区】

魅力1: 景観・自然

(河川整備)

- ・ 昔は野洲川に入れたが、今は藪のようになって入れない。大きな川なのに魅力がない。
- ・ 大雨の時の治水を前提に河川整備が行われている。
- ・ 石でつくった水路が残っている。継承して、地域資源として発信できないか。
- ・ 駅の近くの川にも自然が残っているというまちにしたい。
- ・ 親水公園を何カ所か整備してはどうか。

(祇王井川)

- ・ 祇王井川も改修を考える必要がある。川にゴミがたまって溢れやすくなっている。川の中に溝を掘って暗渠にして、水の流れを良くしてはどうか。
- ・ 祇王井川には蛍がいる。観光資源として活かせないか。
- ・ 野洲町の時代には、祇王井川に魚を放流していた。改修工事以降、流量が減ってしまった。元に戻していくことも必要ではないか。
- ・ 祇王井川は価値ある地域資源として再生したい。

魅力2: 歴史

(街道)

- ・ 街道筋に様々な文化財が残されている。点在する歴史・文化資源をつないで、地域資源としてうまく活用できないか。
- ・ 朝鮮人街道の歴史を伝えるものがない。駅前再開発の中で、解説する施設を設けてはどうか。
- ・ 小学生の通学の安全性確保の点からも、朝鮮人街道の朝7～9時の通行制限を改善できないか。

魅力3: その他

(市民とまちづくり)

- ・ 行政は若者の意見を聞いて活かすことを考えてほしい。
- ・ 昔は祭りが沢山あった。しかし、現在は花火も一旦中止となっている。今の子どもたちに祭りを楽しんでもらうため、イベントを開催する(JC と商工会議所が共同)。駅前再開発で人口を増やしてほしい。
- ・ 市民がまちづくり(駅前再開発など)に口も金も出すというようにならないか。
- ・ 「講」(昔からの地域行事)を現代流に見直して、誰でも参加できるオープンなものにしてはどうか。これによって、まちづくりへの雰囲気醸成される。「講」で伝染病(肺結核)、盗難対策が議論されたという記録もある。
- ・ 協働の意識の具体化(精神的な支え、共通の認識の形成)につながるようなものを総合計画の

見直しに盛り込んでほしい。(東日本大震災後に見直す計画として)

(行政職員とまちづくり)

- ・ 野洲町の時代から、地区懇をずっと続けてきた歴史がある。
- ・ 地区懇の行政職員が全ての自治会に派遣されている。自治会の役員は2年で交代するので、専門家として行政職員が様々なアドバイスをするようにしてはどうか。
- ・ 職務中でも、自治会からの要請があれば、職務を一時的に免除して市職員を派遣できるような制度も必要ではないか。

【北野学区】

魅力1: 歴史・文化

(文化)

- ・ 屯倉神社の新しくなった社殿。元々市が立っていて、物流が集積。ひとや穀物、野菜が集まっていた。
- ・ 北村季吟の映画を作って、俳句を普及したい。俳句には季語があるので、自然と環境を意識できる。

(自然)

- ・ 野洲川、剣先という広場、堤防があり、遊歩道が整備されている。その近辺の自然を残していきたい。
- ・ 蛍の住む川をきれいにしていく。ボランティアで中ノ池川の清掃をしている。
- ・ 自然がすごく減る。その中で、鎮守の森として屯倉神社の役割がより大切になる。

魅力2: 住環境

(自然環境)

- ・ 遊歩道プロムナードを自然公園にして、きれいにしていく。
- ・ 魅力ある住宅地にしてほしい。環境を中心に考えて、建築物を住宅のなかに取り入れる。
- ・ 桜を育てているので、環境は今後よくなるだろう。
- ・ 中学校が足りない。
- ・ 自然林の住宅化が進んでいる。さらにそこにプロムナードをつくられる。
- ・ 駅から近いので、高度利用すべきという、自然を破壊する方向が強いのではないかな。
- ・ 今ある屯倉などの自然環境を守ろうというのは少ない。自然のまま残すということこそ、土地の高度利用といえるのではないかな。
- ・ アスファルトをなくし、車ではなく、歩行者を中心とする。もてなす場所として、駅周辺を歩くまちにしてほしい。

(安全)

- ・ スクールガードをしているが、道路に分離帯もガードレールもない。開発の前に子どもたちを守ることが急務。
- ・ 信号もあまりなく、渋滞が増えるのではないかな。
- ・ 子どもの安全を確保する。
- ・ 道路を広く取って、火事や災害に対応できる道路設計をする必要があるのではないかな。

(野洲駅)

- ・ 南側の開発だけでなく、玄関である駅の北側をもっと便利にしていきたい。もっと駅を開放的に広くしていきたい。

魅力3: 市民活動

- ・ ほほえみスポーツクラブや体を動かすサークルに入り、元気に活動している。病院にいくことなく過ごせている。

- ・ 日曜にコミセンなどでイベントがあっても、バスがないので参加しにくい。活動がしやすいようもう少し便利になったらよいと思う。
- ・ 市民懇談会が年に2, 3回開かれ、開発などさまざまな話を聞く機会がもっと必要なのではないか。
- ・ 今日の懇談会も参加者が10数人と少ない。もっとPRがあるとよいのではないか。

魅力4:その他

(行政・企業)

- ・ 都市計画税をはじめ、都市計画に関して地域の住民に説明する。
- ・ 野洲市には大きな企業があるので、こうした企業に市の財政に協力してもらったほうがよい。
- ・ 野洲はアサヒビールの発祥地。野洲の地ビールを作って、アピールしたらどうか。
- ・ アサヒビール跡地を無償で貸し出すなどして、大学誘致などを検討してはどうか。
- ・ 環境に配慮した太陽光発電を市民と行政と企業が連携して進めてはどうか。京セラに協力してもらい、行政が条例などにより、太陽光パネルの設置を進める。
- ・ プロムナードのボランティア活動に地元の方があまり参加していただけないので、もっと参加していただきたい。
- ・ 行政はアクションプランを立ち上げて、よいことをどんどん取り入れてほしい。

【三上学区】

魅力1: 自然環境

(自然環境)

- ・ 都市化が進んでいないのが魅力。
- ・ 住居地として安らぎを感じる。
- ・ 山・川に囲まれ、空気もきれいで、自然環境に恵まれている。
- ・ 生活していくのに不便になった。特に高齢者。

(里山)

- ・ 里山が荒れ放題になっている。しかし、間伐、草刈などの手入れが大変で、ひとりではなかなかできない。ボランティアなどを集めてはどうか。
- ・ 薪などは使われなくなり、人が山に入らなくなった。昔はマツタケも採れた。

(レジャー)

- ・ 自然環境の魅力に頼り、ハード面での整備に目が向いていない。登山道や休憩所・トイレ・駐車場等の整備を進める。
- ・ 妙見堂が朽ちている。見るだけでなく、訪れて楽しめるよう整備する。
- ・ 魚釣岩などはあまり知られていない。

魅力2: 地域コミュニティ

(市民活動)

- ・ 市民にまじめな人が多く、市民団体が多くあり、活発に活動している。
- ・ 活動しやすい環境を整える。データを整理し、自主的活動がしやすい環境づくり。
- ・ 市民だよりが届いていないところがある。

(自治会活動)

- ・ 役員になった人が精一杯、アイデアとエネルギーを発揮している。
- ・ 行事が多く、役員になると、土日はいつも何かの会議に出ないといけない。そのため、若い人はなりたがらない。
- ・ 役員の任期が1年(1区は2年)のため、慣れたころに終わってしまう。取組が進みにくい。見守り用のしるしや声かけ運動などの取組は時間をかけて進める必要がある。
- ・ 若い人に自治会活動とは何かということや、メリットや必要性を理解してもらう。
- ・ 退職を理由に会費を払わない人がいる。これでは有事のときに機能しない。また、高齢者でもやめたい、という人がいる。
- ・ 高齢者のニーズに対して自治会活動が必要。ただし、拘束力がない。
- ・ 自治会活動がしっかりしていると、災害時の受け入れ態勢も整いやすい。有事のときに機能する。
- ・ 80歳以上になると、高齢を理由に抜きたいという人が出る。掃除など行事に参加するのが大変なため。これは今後どの地域でも出てくる問題。
- ・ 声かけは民生委員だけでは限界がある。
- ・ 新旧住民の融和。

- ・ 高齢化が心配、世代交代が必要。若い人たちが仕事の関係で外に出て行っている。高齢者だけで守っていけるか。

魅力3: 歴史・文化

(観光・PR)

- ・ 総合的なまちづくりができていないのではないか。銅鐸、藍染、いろいろあるが、総合的に結び付けられないといけない。その結びつけが弱い。
- ・ 見学には事前予約が必要だったり、見学に行っても休みだったりすることがある。祇王寺も常時開いてはいない。
- ・ 寺社などを地域の資源・文化と捉えれば、自治会や寺社まかせにせず、行政が関与する余地があるのではないか。もっと観光に結びつけるべき。
- ・ 長浜も彦根も商売が上手。大河ドラマを利用したPR、人を呼び込むことを考える。彦根市はマスコミを巻き込んだPRがうまい。
- ・ 観光ガイドはシルバー人材センターの人が協力してくれる。
- ・ 銅鐸くんではひこにゃんにかなわない。
- ・ 野洲市の歌を作ってはどうか(歌詞の中に観光地をたくさん盛り込む)。
- ・ 大学や企業を誘致し、活性化してはどうか。

(銅鐸)

- ・ 銅鐸を触って歴史を感じるようなイベントをしてはどうか。陳列するほどの価値がないものを集めて直接触れることができるようにする(小学生だけでなく、市民一般にも)。掘り出しも、展示もされず眠ったままの銅鐸もある。

魅力4: 住環境

(交通)

- ・ JR の新快速が止まる(野洲止・始発)。
- ・ 車を使えばすべてのものが近くにある。しかし、家から駅までの交通の便は悪い。
- ・ 駅前のロータリーに自家用車が入れない。
- ・ 栗東インターから希望が丘までの渋滞対策が必要。
- ・ 循環バスと滋賀交通の便の時間が重なっている。
- ・ 駅に行くには時間がかかる。
- ・ 朝夕限定で駅直行のバスを走らせてはどうか。
- ・ 地域循環バスと駅への直行便を接続する(駅から遠いどこかにターミナルをつくり、そこから直行便にアクセスする)。

(利便性)

- ・ 高齢者の生活環境がよくない。平和堂に行こうにも、民間のバスは停まらない(循環バスは停まる)。
- ・ 近江富士地区に店がない。もっと歳をとると身近に買い物できる場所がないと困る。
- ・ 買い物は宅配サービスなどに変わっていくのか。

【祇王学区】

魅力1: 歴史・文化・祭り

(寺社・祭り)

- ・ 菅原神社の火渡り神事は伝統的な行事で、地域住民が参加している。
- ・ 中山道の隧道の石が埋まっている(すぐ掘り出せる)。
- ・ 祇王夏祭りでは市が出る。
- ・ 祇王大収穫祭がある。

(歴史資源・PR)

- ・ 妓王寺には妓王、妓女がいて、村を豊かにしたという言い伝えがある。大河ドラマとタイアップできないか。また、寺の今後の管理が心配である。
- ・ 歴史資源に事欠かない。県全体で連携していろいろな資源を組み合わせではどうか。
- ・ 永原御殿について、どこにあるか、今どうなっているか、と聞かれるが、狐の住処となっているのが現状。「本陣」はたくさんあるが、「御殿」はあまりなく、実は相当の文化財。家康(+数千人の家来)が宿泊したとされる。しっかり整備して欲しい(ただし、民地なので理解を求める必要がある)。
- ・ 平家物語の舞台であり、歴史がある。
- ・ 旧朝鮮人街道は風情がある歴史的な街道である。

魅力2: 自然

- ・ 自然が豊かででありながら、その良さを活かしきれていない。

(農業)

- ・ 世界的には食料が足りない。
- ・ バイオ燃料、イモから石油代替品をつくる。大学と連携ではどうか。

(河川)

- ・ 妓王井川をはじめとした川の美化(県と市でたらいまわし)に責任を持って取り組む。川べりを散歩できるよう整備する。
- ・ 自治会が連携して守ってきた。
- ・ 中ノ池川沿いには桜の木が並び、蛍がいる。

(名産品)

- ・ 道の駅・街の駅などで地産地消の産品を売る。

魅力3: 地域コミュニティ

(コミュニティ)

- ・ コミセン後援会をはじめ、各団体の貢献意識が高い。「向こう3軒両隣」の精神が息づいている。助け合いの精神が強い。
- ・ 地域のいろんなテーマを掘り起こす(永原御殿、新駅など)。一般の人々をどう巻き込むか。
- ・ 緑が豊かで子どもも多く、活力に富んでいる。
- ・ 祇王大運動会がある。

(自治組織)

- ・ これまではさまざまな団体が協働で何かする場が無かった。協議会を開いてはどうか。
- ・ 旧在所の方々と新入居者の方々とが尊重しあい、自治会活動を行っている。
- ・ 祇王まちづくり推進協議会を立ち上げた。行政から言われて作ったのではない。
- ・ 自治会だけでは防災組織として機能しない。学区で組織化するべき。自治会の狭間をカバーする必要がある。
- ・ 自治会の中で学区が混ざっている。管理が難しい。アンケートをとっても意見が分かれる。

魅力4:その他

(大学・短大誘致)

- ・ 福祉系、高齢化社会を支える人材を育成する。
- ・ さまざまな課題に対する対応のピッチを上げる。

(新駅)

- ・ 野洲駅のキャパシティや村田製作所等の従業員数などの要素を踏まえて検討する必要がある。
- ・ 野洲駅のキャパシティはいっぱいではないか。
- ・ 当初きれいに整備された道路だが、管理が行き届いていない。

【篠原学区】

魅力1:自然・景観

(林業)

- ・ 市民に開かれた林業。市民と一緒に山に入って、楽しみながら林業に携わってもらう活動を進める。
- ・ 漁民の森などの取組をもっと発展させたい。
- ・ ふるさとの山、琵琶湖を大切にするため、森林組合の事業をやっている。
- ・ 篠原学区は自然環境に恵まれた地区。
- ・ 人口の高齢化は避けられず、林業を守る後継者が少なくなっている。関心をもつ市民の参画を得て里山事業を展開してはどうか。
- ・ 夕陽丘という山を整備すれば、訪れる人も増える。
- ・ 山にイノシシがいて山の被害も出ている。対策が必要。
- ・ 山を管理する後継者がいない。

(過疎化対策)

- ・ 過疎化にどう対応するかを考えていく必要がある。
- ・ 篠原駅周辺整備、祇王駅(新駅)の設置を検討してもらいたい。道路整備も進める必要がある。
- ・ 人口を増やす施策が必要。用途区域の見直し(調整区域内の地区計画による住宅整備)や、若者が定着できる商業集積の形成など。
- ・ 篠原駅を整備し、産業が立地すれば、人口対策にもプラス。
- ・ 観光面の取り組みも進めてほしい。

魅力2:子育て・地域コミュニティ

(障がい児)

- ・ 障がい児の幼稚園・保育園への入園が可能であり、障がいの特性に合わせた保育もしてもらえる(他市では入園が容易ではない)。
- ・ 小学校では、障がい児の特別支援教育に熱心に取り組んでいる(他府県からの転入もあるほど)。
- ・ 障がい児に理解のある、住みやすいまち。
- ・ 知的に遅れのない発達障がい児(中学生)が特別支援学級に在籍しても、内申点がつくようになっている。
- ・ 就労の機会がないことが問題。ひきこもり、生活保護に頼る生活になってしまう。就労の機会があれば、障がい者も納税者になり自立した生活ができる(生涯にわたる支援が期待される)。
- ・ 障がい児が過ごしやすいまちは、その他の子どもも過ごしやすいまちといえる。

(地域コミュニティ)

- ・ 神社では、子どもたちも巻き込んで鎮守の森を守る取組をしている。
- ・ 小学校1～6年まで単学級なので、子どもたちがコミュニケーションできる機会が沢山ある(少ないが故のメリット)。
- ・ コミュニティの担い手が少なくなっている。親が共働き。
- ・ この学区はコミュニティができる地域。高齢者と子どもが関わることができる。
- ・ ここに来たら誰かがいるだろうというような場ができる学区。
- ・ 話し合いができる場がない。老人会とPTAの連携が必要。
- ・ コミセンにも、人が集まりやすい工夫がある。
- ・ 学区を越えて取り組んでも良いのではないか。

- ・ 地域の住民がつながっていれば、災害時に助け合いができる。広い年代でつながりができればよい。
- ・ 学区の教育環境は変わっていない。通学路の安全確保が必要。

魅力3:歴史・文化

(寺社・文化財)

- ・ 30～40 年前は神社、仏閣で行事があり、それがコミュニケーションの場にもなっていたが、今はなくなっている。
- ・ 神社、仏閣を守るとは地元住民の負担になっている。住民の考え方も変わっている。負担になることはしなくていいのではないか。
- ・ 市として文化財などの地域資源のPRが足りないのではないか。

魅力4:その他

(産業)

- ・ 今あるものを活かす。篠原駅へのアクセスのよさや、世界最先端の村田製作所の立地など。
- ・ 地域を越えて人が集まるようなことができないか。
- ・ 新クリーンセンターの廃熱利用ができないか。きのこの栽培や林業の製材過程の乾燥に廃熱を利用することはできないか。
- ・ 村田製作所が地域には開かれており、「しゃくなげ鑑賞会」には住民が敷地に入れる(ロボットの見学もできた)。
- ・ ロボット博物館ができれば、沢山の見学があるのではないか。
- ・ 伏流水(排水)で堤防がくずれて困っている。

(防災)

- ・ 災害対策が十分に行われていない。
- ・ 福井県原発で事故が発生したらどうなるのか。

(篠原駅周辺整備)

- ・ 篠原駅周辺整備は将来進展する可能性はあるのか。
- ・ 駅から安全に通勤・通学できる道路整備をお願いしたい。
- ・ 福祉避難所が必要なのではないか(滋賀県内には一つもない)。現在の避難所の学校施設はバリアフリーではない。車いすのまま入れるトイレの設置などが求められる。

【中里学区】

魅力1: 自然環境

(自然環境保全)

- ・ 河川愛護の取り組みがある。今年3月から7つの自治会で河川の愛護会をつくる。市内の川の9割をカバーしている。しかし、高齢化が進むと続けられない。
- ・ 河川愛護活動に地域で取り組めるとよい。
- ・ 蛍はダムの上水路がバス停のところまで伸びて、また見られるようになった。水が流れるだけで蛍だけでなく、地域の環境が大きく変わる。自然環境の方が将来にわたって安定した魅力となる。
- ・ 河川の景観を楽しめる自転車道があるとよい。堤防の景観も美しくする。
- ・ 野洲川には昔は伏流水があった。完全に取り戻すのは難しくても、再生する方法はないか。水源を確保する。

(都市開発)

- ・ 市街地の再開発が進むと排水が出るが、排水計画がどうなっているか心配。
- ・ 上流の開発の負荷が下流にかかる。
- ・ 学区間のバランスの取れた開発。
- ・ 人口減少を食い止めるためには増加のための土地利用が必要。

(住民の関心)

- ・ 平地なので、土砂崩れなどの被害が少なく、安心できる地域ではないか。PRすれば人口増にも寄与するのでは。
- ・ 中里は野洲平野の中心。自然が美しくてよいところ。にもかかわらず、地域住民のまちづくりへの関心が高くない。
- ・ 自然環境のよい所を若い人に知ってもらい、ふるさとを愛する心を若い人に対して呼び起こす。

魅力2: 歴史・文化

(地域資源への関心)

- ・ 市外の人魅力に感じるような資源がない。
- ・ 郷土史を記す。伝説的なものよりも史実に忠実に記録を残す。
- ・ 歴史的なものから地域の魅力を作り出す。
- ・ 規模は小さくても地域の行事などを地域で継承していくべきものがある。
- ・ すでに現在では廃れてしまったお祭りがある。
- ・ 地元の人も知らない身近な歴史資源がある(廃仏毀釈で消えたものなど)。そうしたことを知ることによって郷土愛や自然保護に結びつく。
- ・ 博物館が地域に出て活動している。これはよい方法の一つ。

(地域の保存)

- ・ 社寺仏閣、地域の伝統文化の維持と伝承は手助けがないと難しい。従来通りの方法では続かない。お金と時間がともに不足している。
- ・ 兵主・三上にしても、桧皮葺の屋根の葺き替えは氏子の寄付だけで賄われている。鎮守の森がなくなってしまう。緑がどんどん減っている。文化財を守るための行政の気概、住民の意識が重

要。

魅力3:住環境等

(安心・安全)

- ・ 住むための安全・安心は日本でもトップレベルではないか。地下水脈もある。土砂崩れの心配は小さい。震災の影響で高層マンションより一戸建てに住みたい人が増えるのでは。
- ・ 坂がないのは住みよい大きなポイント。
- ・ 子育て環境は自然が豊かなところのほうが好まれる。
- ・ 人口減少・過疎化をただ受け入れるのではなく、若い世代、子育て世帯を受け入れる。

(土地利用)

- ・ 土地利用上の規制。街路も行き止まりが多い。つぎはぎの開発が先行して整合がとれていない。
- ・ 生産者が畑を手放したがついているところがある。いろいろと開発・工夫の余地があるのではないか。
- ・ 広い土地の開発には病院などの核となる施設が必要とされる。
- ・ 地主の方の関心が低い。
- ・ 分庁舎問題と合わせて副都心問題を考える。
- ・ 道路(野洲中主線)ができれば郊外型のまちづくりができる。
- ・ 土地利用上の権限が小さい中で、何かしようと思ったら、よほどの構想が必要。

(農業)

- ・ 若い人が農業に魅力を感じず、名古屋や大阪に出て行く。農業だけでは食べていけない。

【兵主学区】

魅力1: 自然環境・漁業

(自然環境)

- ・ 吉川湖岸緑地は自然を破壊している。最後に残る自然林なのに、駐車場を作ったりするために、伐採されている。市民の知らないところで工事が進められている。
- ・ 緑地には希少植物があり、それを残すために活動している市民団体もある。
- ・ 水の保全に関する施設のお願いを市にしたが、経費が高く難しいとのことだった。
- ・ カルキや薬品の入っている水道水を飲み、洗剤を使って洗い物をしている中で、琵琶湖や川の話だけではだめなのではないか。生活の基本的なところからみんなで考えるべき。
- ・ 地域の人みんなで環境の問題を考える意識付けが必要。
- ・ 奇形の魚を川で見かけるようになった。
- ・ 県は琵琶湖の水質はよくなっているという。それは正確な測定がされていないためだろう。何千種類の化学物質が琵琶湖に流れ込んでいる。
- ・ 企業にも何ができるかという意識を持ってもらい、技術を活かして環境を守っていく。
- ・ 人口を増やしたら、よいこともあれば悪いこともある。そのバランスを考えることが大事。

(漁業)

- ・ 市民と行政と一緒に環境計画を作り、漁業従事者と市民が家棟川の環境保全に取り組んでいる。
- ・ 里山の保全も進めている。
- ・ 漁業そのものがあまり市民に知られていない。漁業を市民に開かれたものにしてはどうか。漁港を活用する。
- ・ 家棟川、新川が汚れてしまって、魚が全滅状態。
- ・ ゆりかご水田への参加者が市民より市外の方が多い。もっと市民の関心を高める必要がある。現在は県が主体だが、市が主体となったほうが市民は関わりを持ちやすい。
- ・ 昔は水田には生き物があふれていたが、今はそうではない。ゆりかご水田には稚魚がたくさんいて命があふれている。そこで育った魚が琵琶湖に行き、漁業にもつながる。JAが主体となって給食にも使われている。
- ・ もっと全面的に農薬を禁止してはどうか。そうでないと河川の水質を守れない。土手付近の除草剤などが流れてしまう。市に管理してほしい。
- ・ 水の保全が大切。10年前、100年前と同じ水になっているのか。
- ・ 人口や生活が変わり、農業を変わっている中で、水質を昔とまったく同じに保つのは難しい。そのバランスが重要。片方だけを重視するわけにも行かない。
- ・ 農業だけでなく、生活用水、工業用水も関係しており、今までの水質と変わっていないのか。
- ・ 漁業のあり方も変わっている。それにあわせて生態系のバランスも変わる。

魅力2: 歴史・文化・レジャー

(歴史・文化)

- ・ 兵主まつりを残していきたい。

- ・ まつりの歴史を説明するボランティアによって、継承していく活動があればよい。
- ・ 掃除をするボランティア活動は行われている。

(レジャー)

- ・ ヨットハーバーの設置を提案したことがあるが、実現されなかった。
- ・ あやめ浜は昔、子どもを連れて行って安心して遊ばせることのできる場所だった。
- ・ 新しいものを作るより、今あるものを大事にしたらよいと思う。
- ・ レジャーが活発になると、環境破壊など住んでいる人の生活に影響を与えて、むしろ地域を壊してしまうのではないか。
- ・ 湖岸の空き地を芝生の公園にしてはどうか。
- ・ ないものねだりをするのではなく、砂浜をそのままの形で使って、子どものスポーツの場や、レクリエーションの場として、使ったらよいのではないか。
- ・ 水や環境が汚れているということを踏まえて、開発を考えないといけないのではないか。

魅力3: 人材育成・コミュニティ

(人材育成)

- ・ 人材、ひとづくりにもっと力を入れてほしい。
- ・ 野洲市から日本を引っ張っていくひとを育てていく。すばらしいひとを探すのではなく、育てるという意識。野洲市の中で、野洲市や滋賀県のためになる人材を育てるビジョンを持つ必要がある。
- ・ 競争やリスクに対応できる人材をつくっていなければならない。プロフェッショナルをつくる。
- ・ 人材が外へ流出してしまってはもったいない。
- ・ 総合計画の中で人材育成を明確に書いてほしい。

(コミュニティ)

- ・ お互いの助け合いや、道徳ということに関して、普段の生活からなくなっている。
- ・ 核家族化によって異なる世代や他の親戚と触れ合う機会が減っている。世代間交流の機会を増やすことが人材の育成にもつながっていた。
- ・ 高齢者の医療や介護だけでなく、もっと子どもに対する教育や人材育成を支援するべき。
- ・ 昔は子育てをする親のための子育て教室があり、同世代の親と知り合う場所があった。今は単発の教室があっても、継続的なものはないので、交流する場があったらよいと思う。小さい子どもを連れて行くので、学区単位くらいの身近な場所で開いてほしい。
- ・ 高齢者に対する交流サロンは非常に活発。それと比べると子どもや親に対してはあまり多くない。
- ・ 地域によって子育てをする人の多さが全く異なる。
- ・ 三世代の同居などを進めれば、高齢者の介護や子育ての両方によい効果があるのではないか。
- ・ 学区別などの小さな視点ではなくもっと大きな枠組みの中で、市は重点的に取り組むべきことを考え、成果を残していく必要があるのではないか。